

宗教感話

聖書科講師・牧師として

青山教会牧師
増田 将平
MASUDA Shohei



私はこれまで女子短期大学の「キリスト教
学」、大学の「キリスト教概論」を担当し、現
在は高等部一年生の二つのクラスで聖書を教え
ています。金曜日の授業前、私が出勤すると同
僚の先生が「さあ、もうすぐ今週が終わるぞ」
と迎えてくださいます。どうやら私は週末を告
げるベルのようです。続けて先生は「頑張りを
しましょう！」と声をかけてくださいます。

木曜日は別のキリスト教主義学校で高校一年
生の全クラスを教えています。そこは女子校で
すから、十五年間教えていても、時々自分が別
世界にいるように感じることもあります。翌日
の高等部は共学ですからどこことなく懐かしく、
私は二日間のギャップを楽しんでいます。

生徒たちのコメントから

聖書の授業には様々なスタイルがあります

た。その理由はこの映画には『リアリティー』
があるからだ。これは聖書の中だけの話ではな
い。今もこのように信じ、生きている人が自分
の周りにいるというリアリティーが私を感動さ
せるのだ。なるほどと思われました。聖書
は読むだけの書物ではなくて、生きるものです。
自分が問われたようにも思いました。だからと
いうわけではないのですが、私は授業で体験談
を話すことがよくあります。小学生の頃はいじ
められっ子だったこと、高校一年生の夏休み明
けにラグビー部を退部して三年間の「独り帰宅
部」生活が始まったこと。人付き合いがうまく
できなくて、休み時間になるとカセットテープ
のウォークマンでハードロックを大音量で聞い
ていた「ネクラ」、今でいう「陰キャ」だった
ことなどです。ほとんどが、いえ、すべてが失
敗談です。話すのが苦手で、周囲から見れば変
人だった私が、今こうして学校で楽しく教えて
います。ある生徒が言っています。

「中学でも宗教の授業があつて、いつも思うの
ですが、どうして聖書関係の先生つてもすごい
過去や面白い体験談が日常に溢れているのでし
ょうか。マンガの主人公みたいだと常々思います」。
自分がそれほど劇的な人生を送っているとは思
っていないのですが、体験談を始めるとうつむ
いていた生徒が顔をあげてこつちを見てください。
どうしてなのでしょう。おそらく、目の前の本
人からネットとは違う「リアリティー」を感じる
のでしょう。悩ましいことに多くの生徒が授業で

が、私が大切にしているのは、聖書の考え方を
理解した上で、自分はどうのように考えるのかと
いうことです。授業では「悪」「死」「愛」「職
業」などテーマを定めて聖書から展開していま
す。授業が「自分とは何者か」を考える一つの
手がかりになってくれたらと願っています。以
下、生徒たちのコメントを紹介しましょう。

「聖書の授業は」私自身を見つめなおすこ
とももつながっています。例えばヨセフの話
に、一見とても悪で良くないことが起きたとし
ても、それはすべて神のご計画のうちにあるこ
とで、善にも変えることができるということが
印象に残っていて、いつも良くないことがある
と自己嫌悪に陥ってしまうけれど、それも良い
ことにつながっているんだという考えを持つこ
とによってプラスの方向で考えられるなと思
いました。私はキリスト者ではないけれど、そう

体験談をもっと聞かせてくれと言います。

また、こんなコメントもありました。

「今まで一度もキリスト教に触れてこなかっ
た私にとっては理解することが難しい時もあり
ますが、クラスのみんなの意見を聞きながら進
むので親近感が湧きやすかったです」。

このような意見は私が教える二つの学校で共通
してあります。クラスメートがどんな考えを持っ
ているのか聞くのはとても新鮮なようです。普段
は友人の考えを聞く機会がありませんからでし
ょう。クラスで「あなたはどうか考える？」と質問す
ると、予想していなかった発言が出てきて、私は
驚き、感心し、時に生徒と一緒に爆笑し、大いに
刺激を受けています。教師の醍醐味の一つです。

学生たちとの思いがけない出会い

私が学院の近所の教会で働いていることもあ
り、意外なところで大学生になった高等部の卒業
生たちと会うことがあります。ある時は表参道の
カフェで授業の準備をしていると、人懐っこい店
員から声をかけられました。話を分かったの
ですが高等部の卒業生でした。また近所のケーキ
屋さんで列に並んでいると、挨拶してくれた店員
は私の教え子で、おすすめのレストランを教えてく
れました。ハンバーガーショップで注文を済ませて
待っていると、給仕してくれた店員が私に言いま
した。「高等部の牧師さんですよ。声でわかり
ました」。聞くと大学一年生の高等部卒業生でし
た。授業を担当したことがない生徒でしたがコロ

いった生活における考え方などをもっと学んで
いけたら良いなと思っています」。

ヨセフ物語では、父親やコブが未亡子のヨセ
フをえこひいきした結果、嫉妬心と憎しみに燃
えた兄たちがヨセフを奴隷商人に売り渡します。
美談などでは決してありません。聖書に登場す
る人々と家族は、良い意味でも悪い意味でも人
間臭い。そういう人々が思いがけない仕方と神
と出会い、生き、天に召されました。聖書の人
物たちの生涯から、生徒が人生についてあれこ
れ考え、自分と向き合う機会になればと思います。
映画『パウロ』の初上映を観た時のことです。
上映後にトークショーがあり、作曲家の松任谷
正隆氏がこの映画の魅力を語りました。「自分
はクリスチャンではないし、正直『こんなこと
本当にあるのか』と思った場面もいくつかあつ
た。それでも、自分はこの映画に深く感動し

た。その理由はこの映画には『リアリティー』
があるからだ。これは聖書の中だけの話ではな
い。今もこのように信じ、生きている人が自分
の周りにいるというリアリティーが私を感動さ
せるのだ。なるほどと思われました。聖書
は読むだけの書物ではなくて、生きるものです。
自分が問われたようにも思いました。だからと
いうわけではないのですが、私は授業で体験談
を話すことがよくあります。小学生の頃はいじ
められっ子だったこと、高校一年生の夏休み明
けにラグビー部を退部して三年間の「独り帰宅
部」生活が始まったこと。人付き合いがうまく
できなくて、休み時間になるとカセットテープ
のウォークマンでハードロックを大音量で聞い
ていた「ネクラ」、今でいう「陰キャ」だった
ことなどです。ほとんどが、いえ、すべてが失
敗談です。話すのが苦手で、周囲から見れば変
人だった私が、今こうして学校で楽しく教えて
います。ある生徒が言っています。

「中学でも宗教の授業があつて、いつも思うの
ですが、どうして聖書関係の先生つてもすごい
過去や面白い体験談が日常に溢れているのでし
ょうか。マンガの主人公みたいだと常々思います」。
自分がそれほど劇的な人生を送っているとは思
っていないのですが、体験談を始めるとうつむ
いていた生徒が顔をあげてこつちを見てください。
どうしてなのでしょう。おそらく、目の前の本
人からネットとは違う「リアリティー」を感じる
のでしょう。悩ましいことに多くの生徒が授業で